

西いぶり広域連合3市3町が 震災がれきの視察を行いました



5月9日(水)・10日(木)、登別市を含む西胆振3市3町の市町長などが、東日本大震災の被災地・岩手県釜石市を訪れ、震災がれきの仮置き場や処理施設などを視察し、保管や処理の状況を確認しました。

釜石市は、震災で死者・行方不明者1,016人、住宅被害3,692棟の被害に見舞われ、現在も6,000人余りが仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。

市内の震災がれき発生量は約82万ト(推計)。今も震災の傷跡が残り、解体を待つ被災した建物などが多く見られ、基礎部分だけが残った街並みのところもあるなど、復興には時間を要する印象でした。

また、市民・企業・市とも震災がれきの処理に追われ、道路や港湾、学校、病院、公園など社会資本の再整備ができず、震災がれきが復興の妨げになっているほか、33年前に建設された釜石市の清掃工場は、1日当たり約100トを焼却する能力がありますが、老朽化による設備の故障が懸念されています。

釜石市は、「震災がれきの処理が終わりではなく、その後の復興に一刻も早く力を入れていくためにも、一日も早く震災がれきを処理し復興を進めたい」と考えていますが、約2年後の震災がれき処理の完了を目標とした計画よりも、実際の処理作業は遅れているとのこと。

この現状は、被災地各地に共通した課題となっています。

登別市は、今回の視察結果や町内会との懇談会における意見なども参考に、周辺自治体と協議の上、岩手県・宮城県の震災がれき受け入れ可否の決定に向けた方針や対応、地域として被災地の復興にどんな支援ができるかを検討していきます。



▲震災がれきが運び込まれる仮置き場



▲手作業で不燃物を取り除く様子



▲放射線測定装置で実際に測定

第2回

放射線の基礎知識

5月号では、放射線と放射能の違いや人体への影響について紹介しました。今月のテーマは『日常生活で浴びる放射線』です。

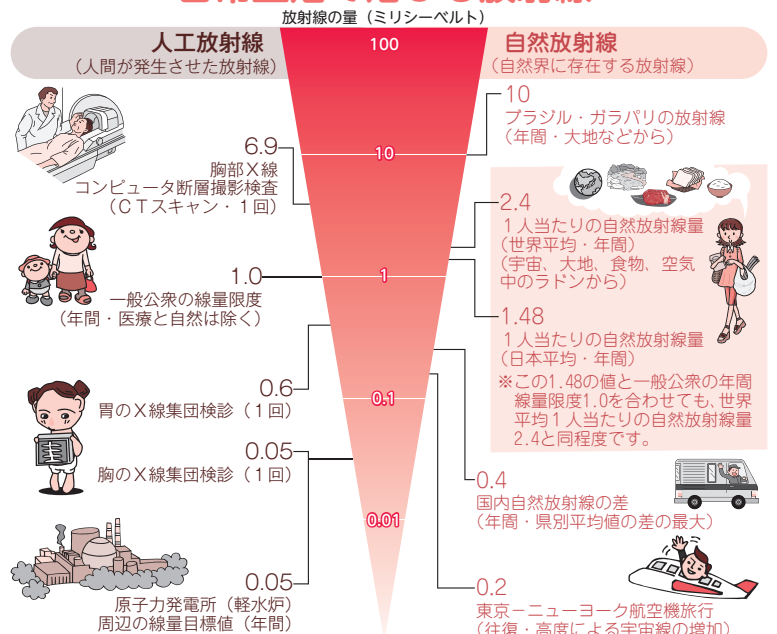
人体への影響などから放射線と聞くと、恐ろしいイメージを持つ方が多いかもしれません。

しかし私たち人間は、ずっと昔から放射線を浴びながら生きてきました。

今回は、日常生活のさまざまなシーンで浴びている放射線の量についてお知らせします。

7月号では、喫煙、飲酒、野菜不足などの日常生活の要因と放射線を浴びた場合の要因で、発がんの可能性がどのくらい増加すると言われているか、比較して紹介する予定です。

日常生活で浴びる放射線



問い合わせ 環境対策グループ (クリンクルセンター内・☎**2958**)

西いぶり広域連合3市3町が
震災がれきの視察を行いました

広報のぼりべつ2012年 6月号